# 令和５年度　国語科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

### （１）　成果

・昨年度からの課題であった「主体的に学習に取り組む態度」において、単元の流れや単元目標、本時の目標などを教師だけでなく児童にも提示し明確にさせて学習に臨ませることで、どの学年も目標値を上回ることができた。

・基礎区分のみならず、活用区分に関しても目標値を上回っている。知識や技能を思考したり表現したりする際に活用するような場を多く設けたことによるものであると考えられる。身に付けた力を着実に問題解決に生かすことができている様子が伺える。

### （２）　課題

・気付いたことや感想などを表現する機会を多く設定し、自分の考えに自信をもつことができるようにすることと、それを文章で正しく表現できるようにする力を育成することが引き続きの課題となっている。

## ２　大田区学習効果測定の結果分析

### （１）　達成率（経年比較）

| | 令和５年度結果 | 令和４年度結果 | 令和３年度結果 |
|---|---|---|---|
| 第４学年 | 目標値に対する達成率は、約８割であり、約２割の児童が目標を達成できていない。前年度の４年生に比べて達成率が高くなっている。 | | |
| 第５学年 | 目標値に対する達成率は、約７割９分であり、約２割の児童が目標を達成できていない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約４分増加した。 | 目標値に対する達成率は、約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成できていない。 | |
| 第６学年 | 目標値に対する達成率は、約８割であり、約２割の児童が目標を達成できていない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分増加した。 | 目標値に対する達成率は、約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成できていない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分減少した。 | 目標値に対する達成率は、約８割であり、約２割の児童が目標を達成できていない。 |

（2）　分析（観点別）

①　中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 目標値を７ポイント上回っていて、知識・技能の定着が見られる。領域別にみると、主語と述語の関係についての理解に課題がある。文の構造を確認していく必要があると考えられる。 | 目標値を８．３ポイント上回っている。領域別にみると、「文章を書く」が比較的ポイントが低い傾向にある。文字数や内容に制限がある文章を書く機会が少ないことによるものと考えられる。 | 目標値を５．９ポイント上回っている。「文章を書く」領域での無回答が、他の領域と比較して多くなっているため、引き続き自分の考えを文章で表現する機会を増やし、自信をもたせることが必要と考える。 |

②　高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ５年生は５．８ポイント、６年生は８．５ポイント目標値上回っている。「漢字を読む」はどちらの学年も比較的身に付いているが、５年生は「連用修飾語」について、６年生は「漢字を書く」分野において苦手意識が見られる。 | ５年生は８．５ポイント、６年生は７．５ポイント目標値上回っている。５年生は「文章を書く」において、指定された書き方で文章をまとめる設問、６年生は文章に書かれている情報をまとめて整理する設問において、目標値を下回った。 | ５年生は９．４ポイント、６年生は１０．２ポイント目標値上回っている。しかし、両学年ともに「書くこと」の領域において１割５分～２割程度の無回答が見られる。他の設問の無回答率（５分～１割弱）と比較しても突出して多い。 |

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・配当漢字、ひらがな、かたかなについては、ドリルやプリント、単元ごとの小テストを活用し、繰り返し練習させることで、定着を図ることができるようにする。 | ・思ったことを話したり書いたりする機会を多く設けることで、間違いを恐れずに、自分の考えをもち、自ら表現することができる力を育てる。 | ・内容や感想など、自分の考えや思いを伝え合う機会をもつことで、伝え合う楽しさを感じ、すすんで表現することができるようにする。 |

（2）中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・話し言葉・書き言葉問わず、「だれがどうした」という文構造を意識させることで、文章中の主語と述語の関係に気を付けさせるようにする。 | ・考えを明確にして、指定された長さで文章を書く活動を取り入れることで、目的を意識して書くことができるようにする。 | ・文章に対する感想や意見を伝え合う機会を設定し、自分の考えが相手に伝わるよさに気付き、意欲的に書くことができるようにする。 |

（3）高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・既習の漢字を使って文章を書かせるなど、漢字学習の指導内容を充実させることで、漢字の定着を図ることができるようにする。<br>・話し言葉・書き言葉問わず、主語や述語、修飾語・被修飾語の関係を文構造内で意識させることで、文法に関する知識の定着を図ることができるようにする。 | ・文字数の制限、事例や理由の列挙など様々な書く方法を取り入れることで、条件に合わせて文章を書く力、自分の意見を明確にして文章を書く力、大切なことを落とさずにまとめる力を伸ばすことができるようにする。 | ・文章全体の構成や展開が明確になっているかなどに着目して感想や意見を伝え合う機会を設定することで、自分の考えが相手に伝わるよさに気付き、意欲的に書くことができるようにする。 |

# 令和５年度　社会科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ 全学年、全観点において目標値を上回ると共に、前年度比においても同水準以上の結果が出ている。このことから、昨年度の授業改善プランが一定の効果を上げていることが考えられる。

・ 各学年とも、発達段階や学習内容に即した資料を提示した。その結果、昨年度の課題であった雨温図などの複合的な資料の読み取りに関して、顕著な向上が見られた。

（２）　課題

・ 観点別に各学年を分析した際に、知識・技能の定着にばらつきがある。第４学年においては、目標値を達成していない３問すべてが知識・技能の問題である反面、第５学年においては、昨年度より大幅にポイントを伸ばしている。特に中学年段階において児童の実態に即した授業展開が求められる。

## ２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

| | 令和５年度結果 | 令和４年度結果 | 令和３年度結果 |
|---|---|---|---|
| 第４学年 | 目標値に対する達成率は約８割であり約２割の児童が目標を達成していない。前年度の第４学年に比べて達成率は上昇している。 | | |
| 第５学年 | 目標値に対する達成率は約７割６分であり、約２割４分の児童が目標を達成していない。前年度に比べて目標を達成した児童の割合はわずかに上昇した。 | 目標値に対する達成率は約７割５分であり約２割５分の児童が目標を達成していない。前年の第４学年に比べて達成率が低くなっている。 | |
| 第６学年 | 目標値に対する達成率は約７割３分であり、約２割７分の児童が目標を達成していない。前年度に比べて目標を達成した児童の割合は約５分減少した。 | 目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。前年度に比べて目標を達成した児童の割合は約１割減少した。 | 目標値に対する達成率は約８割５分であり、約１割５分の児童が目標を達成していない。 |

（2）　分析（観点別）

①　中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・目標値は 4.1 ポイント上回り、前年の第４学年よりも上昇している。日常的に資料を活用する機会を設けたことによるものと考えられる。しかし、問題別で見ると、目標値を下回った問題３問すべてが「知識・技能」の基礎問題であり、引き続き定着を図ることが求められる。 | ・目標値は 9.9 ポイント上回り、前年の第４学年よりも上昇している。学習のまとめとして、様々な形での表現活動を取り入れたことによるものと考えられる。また、この観点の問題において、目標値を下回った問題はない。このことから、前年度の改善プランが一定の効果を上げていると考えられる。 | ・目標値は 10.8 ポイント上回り、前年の第４学年も上昇している。単元の導入において、課題を解決するための学習問題を自分たちで設定しことによるものと考えられる。また、この観点の問題において、目標値を下回った問題はない。このことから、前年度の改善プランが一定の効果を上げていると考えられる。 |

②　高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・第５学年は目標値を 10.6 ポイント、第６学年は目標値を 6.9 ポイント上回り、前年度比においては、第６学年は同程度の水準を保っている。第５学年においては、前年度 +9.4 と大きくポイントを伸ばしており、授業改善による知識・技能の確かな定着が見られる。 | ・第５学年は目標値を6.6ポイント、第６学年は目標値を 3.6 ポイント上回り、前年度比においても両学年とも向上が見られる。昨年度設定した授業改善プランが一定の効果を上げているものと考えられ、継続すべきであると考えられる。 | ・第５学年は目標値を7.5ポイント、第６学年は目標値を 9.7 ポイント上回り、前年度比においても両学年とも向上が見られる。昨年度設定した授業改善プランが一定の効果を上げているものと考えられ、継続すべきであると考えられる。 |

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・日常的に地図帳を活用することによって、第３学年は地図記号、第４学年は等高線など、情報の読み取りを習慣化できるようにする。<br>・単位時間ごとに学習課題を明確にし、児童がその時間に何を学んだのかが分かるまとめを提示する。<br>・体験活動や実生活とのつながりを意識させる授業展開により、知識・技能の定着を図る。 | ・発言や文章、絵や図、ポスター、新聞やリーフレットなど様々な表現活動を行う。新聞やリーフレットで表現活動を行う際には、内容を教科書やその他資料を基に自分で考え、まとめることができるようにする。 | ・児童がイラストや写真資料から気付いたことや分かることを話し合うことで、課題を解決するための学習問題を自分たちで設定し、意欲的に取り組むことができるようにする。<br>・発言以外にも ICT やノートでの表現活動を重視することにより、自信をもって取り組むことができるようにする。 |

（2）高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| --- | --- | --- |
| ・日常的に地図帳を活用し、第３学年で学習する地図記号と、第４学年で学習する等高線を用いて、第５学年の国土の学習の土地利用の課題解決を行うことにより、資料活用の技能を系統的に身に付けられるようにする。<br>・グラフなどから分かる傾向などを基に学習課題を見出し、情報を抽出して、それらを関連付けながらまとめていく活動を行うことで、資料を基に課題解決することができるようにする。 | ・新聞記事を用いたスピーチ活動や、社会的事象に関する今日的な課題についての議論を取り入れることで、より考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。<br>・児童同士が議論を行う際には、調べた内容を振り返ったり、課題を共有したりすることで、既習の知識や生活の中での経験を基に話し合わせるようにする。<br>・「いかす」の段階で行う際には、児童が自分の考えを広めたり、深めたりすることできるようにする。 | ・既習事項や日常の経験から児童が持っている知識に対し、矛盾を感じるような資料を提示し、疑問をもつことができるようにする。また、過去と現在の写真を比較して、変化の要因を考える方法などにより、学習問題を作ることができるようにする。<br>・「めあて」と「まとめ」を「問い」と「答え」の形で設定することで、児童が自分事として、調べる目的を明確にもてるようにする。 |

# 令和５年度　算数科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

### （１）　成果

・昨年度、話し合い活動や考えの根拠を伝える活動を充実させ、他者の意見を自分の言葉で伝え直すなど表現することに重点を置いた結果、思考・判断・表現に関する問題については全学年、全ての問題で目標値を上回ることができた。

・日常生活とのつながりや算数の楽しさを感じられるように意識して授業を行った結果、昨年度よりも主体的に取り組む態度に関する問題の正答率が上昇している学年が多かった。

### （２）　課題

・昨年度よりも改善は見られるものの、「測量」や「データの活用」といった領域の正答率は他と比べると低い傾向にある。特に単位の換算やグラフの読み取りを正確に行うことができるようにすることが課題である。

・「数と計算」における基本的な計算において、正答率が低くなっている。繰り上がりや繰り下がり、分数の通分などの計算を正確に行うことが課題である。

## ２　大田区学習効果測定の結果分析

### （１）　達成率（経年比較）

| | 令和５年度結果 | 令和４年度結果 | 令和３年度結果 |
|---|---|---|---|
| 第４学年 | 目標値に対する達成率は約８割３分であり、約１割７分の児童が目標を達成していない。前年の４年生と比べて達成率が上昇した。 | | |
| 第５学年 | 目標値に対する達成率は約７割７分であり、約２割３分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分上昇した。 | 目標値に対する達成率は約７割２分であり、約２割７分の児童が目標を達成していない。前年の４年生と比べて達成率が低くなっている。 | |
| 第６学年 | 目標値に対する達成率は約８割であり、約２割の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分上昇した。 | 目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約１割減少した。 | 目標値に対する達成率は約８割５分であり、約１割５分の児童が目標を達成していない。 |

（2）　分析（観点別）

①　中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・目標値に対して 9.4 ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると「数と計算」が比較的ポイントが低く、繰り上がりや繰り下がりなど基本的な計算問題についての反復練習の不足が理由であると考えられる。 | ・目標値に対して 12．0 ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると「測定」が比較的ポイントが低く、mm（ミリメートル）とm（メートル）といった単位同士の関係を理解し説明する経験が不足していると考えられる。 | ・目標値に対して 9.4 ポイント上回っている。９割近く正答しているものが多い中、記述式の問題が比較的ポイントが低い。無回答の児童は少ないことから、自分の考えがより正確に伝わるように、言葉を練り上げていく経験が必要であると考えられる。 |

②　高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・目標値を 5 年は 6.1 ポイント、6 年は 10.0 ポイントそれぞれ上回っている。しかし、出題内容別に見ると「小数」や「分数」の計算問題が比較的ポイントが低く、位取りの仕組みの理解や、小数および分数の大小比較をする経験が不十分であることが原因として考えられる。 | ・目標値を 5 年は 10.0 ポイント、6 年は 9.4 ポイントそれぞれ上回っている。しかし、領域別に見るとどちらの学年も「数と計算」の問題が比較的ポイントが低く、立式の根拠や大小関係を判断した理由などを図や表と対応させて考える機会をより増やしていく必要があると考えられる。 | ・目標値を 5 年は 7.6 ポイント、6 年は 13.5 ポイントそれぞれ上回っている。しかし、領域別に見るとどちらの学年も「図形」の問題が比較的ポイントが低く、特に作図できるようになった図形を他の教科や日常生活の中で活用していく経験が不足していると考えられる。 |

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・基本的な計算については、タブレットドリル等を活用しながら現在の学習を維持しつつ、具体物を用いた取組を充実させたり、様々な場面で活用したりすることで、理解を促し、確実に身に付けることができるようにする。 | ・具体物や半具体物を使って考えたり、考えたことを図や言葉に直して表現したりすることができる場を多く設定する。また、単位の導入の際には、その量感や単位の関係性を視覚的にわかるようにし、言葉での説明するように促す。 | ・日常生活の中から問題を設定し、棒グラフなどに表して量を比べたり、形を組み合わせて模様を作ったりするなど、身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定し、算数の有用性を感じることができるようにする。 |

（2）中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・式や計算の過程、基本的な計算を具体物や半具体物を用いることで、既習事項と関連付けたり、タブレットドリル等を活用して計算や測量方法の基礎基本の定着を図ったりすることで、正確に計算ができるようにする。 | ・単位同士の関係について、具体物を用いてその大きさの違いを考えたり、計算式と対応させたりする機会を増やし、それらを共有させることで、他者が考えたことを理解することや分かったことを自分の言葉で表現することができるようにする。 | ・日常生活の中から問題を設定し、棒グラフや折れ線グラフの違いを意識して使い分けたり、図形の特徴から仲間分けをし直したりして、身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定し、算数の有用性を感じることができるようにする。 |

（3）高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・抽象的な内容を具体的なものに置き換えて理解したり、式や計算の過程、基本的な計算を具体物や半具体物を用いることで、既習事項と関連付けて考えたりすることができるようにする。<br>・タブレットドリル等を活用して分数や小数の計算や大小比較などの基礎・基本の定着を図り、正確に計算ができるようにする。 | ・数学的な活動を通して、立式の根拠を式や図表、文字を用いて表現したり、他者が表現したものを自分の言葉で説明したりする機会を増やすことで、根拠をもってそれぞれの考えを説明することができるようにする。 | ・日常生活の中から問題を設定し、作図によって幾何学的なデザインを考えたり、広さやかさの測定方法や比べ方、グラフや割合などの身に付けたことを実際に活用したりする場面を意図的に設定し、算数の有用性や活用することの楽しさを感じることができるようにする。 |

# 令和５年度　理科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

### （１）　成果

- 実物に触れたり、生活経験を想起したりするなど、自然事象との出会いの場面を工夫したことで、問題を発見でき、意欲的に問題解決に取り組むことができた。
- 指導・助言を工夫し、生活体験や既習の学習を想起させることで、予想を立てられる児童が増えた。

### （２）　課題

- 学習を通して知った用語や実験と生活の中で体験した自然事象を結び付けることができない。
- 児童が自分の予想の根拠を表現することが難しい。
- 物質やエネルギーに関わる学習の定着度が低い。
- 知りたい事象について調べるための実験方法を構想できない。

## ２　大田区学習効果測定の結果分析

### （１）　達成率（経年比較）

| | 令和５年度結果 | 令和４年度結果 | 令和３年度結果 |
|---|---|---|---|
| 第４学年 | 目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成できていない。前年の４年生に比べて達成率が少し高くなっている。 | | |
| 第５学年 | 目標値に対する達成率は約６割５分であり、約３割５分の児童が目標を達成できていない。昨年度と比較してほとんど変化がない。 | 目標値に対する達成率は約７割であり、約３割の児童が目標を達成できていない。前年の４年生に比べて達成率が低くなっている。 | |
| 第６学年 | 目標値に対する達成率は約６割５分であり、約３割５分の児童が目標を達成できていない。昨年度と比べて目標を達成した児童の割合が約１割減少した。 | 目標値に対する達成率は約６割５分であり、約３割５分の児童が目標を達成できていない。昨年度と比べて目標を達成した児童の割合が約１割５分減少した。 | 目標値に対する達成率は約８割であり、約２割の児童が目標を達成できていない。 |

（2）　分析（観点別）

①　中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・目標値に対して４ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると「磁石の性質」「電気の通り道」の正答率が比較的低かった。実験の機会と、用語を正しく理解して活用したり、反復練習をしたりする機会が少ないことによるものと考えられる。 | ・目標値に対して 3.6 ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると「太陽と地面の様子」「電気の通り道」「磁石の性質」の正答率が比較的低かった。自然事象について、学習したことを用いて説明したり、原因と結果を結び付けて考えたりする機会が少ないことによるものと考えられる。 | ・目標値に対して 0.4 ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると「電気の通り道」の正答率が比較的低く、特に記述式の問題での無回答の割合が高かった。自分の考えに自信をもつことができないことによるものと考えられる。 |

②　高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・目標値に対して５年生は 1.3 ポイント上回っている。６年生は 1.9 ポイント下回っている。学年間で正答率に大きな差がある。単元別にみると５年「物の温まり方」「電気の働き」６年では、「流れる水の働き」の平均正答率が特に低かった。実験の機会と、用語を正しく理解して活用したり、反復練習をしたりする機会が少ないことによるものと考えられる。 | ・目標値に対して５年生は 7.1 ポイント上回っている。６年生は 1.5 ポイント下回っている。学年間で正答率に大きな差がある。単元別にみると５年は「水の姿」、６年は全体的に平均正答率が低かった。実験の結果から別の実験の予想をする機会が少ないことによるものと考えられる。 | ・目標値に対して５年生は 4.9 ポイント、６年生は 5.6 ポイント上回っている。領域別にみると「物質・エネルギー」の正答率が低く、特に記述式の問題での無回答の割合が高かった。自分の考えに自信をもつことができないことによるものと考えられる。 |

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・一人一人が実物を用いて実験し、用語と具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。また、タブレットのシミュレーションソフトを活用し、反復練習をさせることで、特に「物質・エネルギー」領域の知識の定着を図ることができるようにする。 | ・「理科ノートの達人」を確実に使用させ、説明の仕方を身に付けさせたり、生活体験や既習の学習を想起させたりすることで、学習したことを基に原因と結果を結び付けて考えることができるようにする。 | ・実験や観察において、自分の考えを短い文章で表現する機会を多く設けて励ましたり、「理科ノートの達人」を参照させる機会を設定したりすることで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。 |

（2）高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| --- | --- | --- |
| ・一人一人が実物を用いて実験ができるようにし、用語と具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。また、タブレットのシミュレーションソフトを活用し、反復練習をさせることで、特に、「物質・エネルギー」領域の知識の定着を図ることができるようにする。 | ・これまで学習したことについて表などを用いて整理したり、「理科ノートの達人」を確実に使用させ、表現の方法を身に付けさせたりすることを通して、根拠をもって実験の結果を予想し、実験方法を考えさせ、一つの実験の結果を基に他の実験の結果を予想したりすることができるようにする。 | ・問題解決学習の流れに沿って、導入を工夫することで、自然事象への興味関心をさらに高めるようにする。また、「理科ノートの達人」を参照させる機会を設定することで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。 |

# 令和５年度　外国語科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

### （１）　成果

- 道案内の単元において、方向を表す表現に加え実生活に密着した建物の名前についても体験的に学習することで、具体的な情報を聞き取り、内容を理解することができた。
- 学校行事や季節行事等と関連させた内容をテーマにすることで、児童が積極的にコミュニケーションを取ることができた。
- 児童同士で話す活動を定期的に設けることで、外国語を話す力を伸ばし、学習した表現を積極的に使うことができた。
-

### （２）　課題

- アルファベットの識別を促すために、単語練習をする際、アルファベットを読む活動を取り入れてきたが、音声を聞き、アルファベットを書くことに課題が残る。アルファベットの読み書きの練習時間を確保し、文字の識別ができるようにする必要がある。
- 各単元の中で、書く活動を取り入れてきたが、例文を参考にしながら簡単な語句や表現を用いて書くことについて課題が残る。

## ２　大田区学習効果測定の結果分析

### （１）　達成率（経年比較）

| | 令和５年度結果 |
|---|---|
| 第６学年 | 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」のすべての観点において、正答率の平均が、目標値を達成した。<br>目標値に対する達成率が、前年の６年生と比べて７．３ポイント上昇した。 |

### （２）　分析（観点別）

高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・目標値に対して 8.8 ポイント上回っていて、知識・技能の定着が認められる。<br>・身近で簡単な話を聞き、その意味を理解することができている。<br>・音声を聞いて、活字体の大文字や小文字を書く活動に慣れていない児童がいる。 | ・目標値に対して、5.6 ポイント上回っている。<br>・日常生活に関する対話や、短い物語を聞き、場面、状況などを推測したり、話の概要を捉えたりすることができている。<br>・例文を参考にしながら、身近な人ができることについて簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことが難しい児童がいる。 | ・目標値と同程度の平均正答率である。<br>・例文を参考にしながら、自分の好きな教科や、身近な人について簡単な語句や基本的な表現を用いて主体的に書くことができている。 |

３　授業改善のポイント（観点別）

高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| --- | --- | --- |
| ・授業の始めに、小文字の書き方を全体で確認したり、練習したりする時間を設ける。<br>・学習の中で英単語が出てきた際に、アルファベットを見せたり、読んだりする活動を取り入れることで、小文字の識別ができるようにする。 | ・毎単元の終末では、慣れ親しんだ簡単な語句を用いた例の中から言葉を選んで文章を書く機会を設ける。<br>・学習した表現を用いて、友達のことについて伝え合ったり、伝えたことについて書いたりする機会を増やすことで、英語で書くこと慣れることができるようにする。 | ・ALT と実際に話す機会を設けることで、主体的に英語を用いて伝えることができるようにする。<br>・活動の途中でよいやり取りをしているペアを紹介したり、表現を書かせたりすることで、更に意欲的に取り組むことができるようにする。 |

# 令和５年度　生活科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

### （１）　成果

・ 友達や地域の人、ゲストティーチャーなど様々な人との交流を児童の思いや願いとつなげて効果的なタイミングで行うことで、意欲的に取り組むことができた。
・ カードや付箋、新聞や図鑑など様々な表現方法を例示したり、生活科コーナーに使いやすく設置したりしたことで、自分の考えを進んで表現することができた。

### （２）　課題

・それぞれの単元で、児童一人一人が思いや願いをもち、自分の考えを表現することができた。さらに、児童一人一人の考えを広げ気付きの質を高め、自分自身の成長に気付くことができるようにすることが課題である。
・今年度は、１３０周年でもあるので、学校や地域の人々・場所により一層親しみ、愛着をもち、すすんで関ろうとすることができるようにすることが課題である。

## ２　授業改善のポイント（観点別）

低学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・ 授業の終わりや単元の終末に、振り返りの時間を設定することで認識を深め、それまでの自分と比べて成長に気付くことができるようにする。<br>・ 友達や地域の方、教職員など様々な人々と関わる活動を繰り返し行うことで、自分たちの生活を支えてくれていることに気付くことができるようにする。 | ・ 伝え合い交流する場を工夫することで、友達の発見したことに気付いたり比べたりし、気付きの質を高めることができるようにする。<br>・ 友達や先生、地域の人、ゲストティーチャーなどとの交流の際、活動のねらいなど、事前の打ち合わせを十分に行って授業に臨むようにすることで、学校や地域を支えてくれている場所や人々についての考えを深めることができるようにする。 | ・ 繰り返し関わったり試行錯誤して何度も挑戦したりすることができるような活動を設定することで、すすんで対象に関わり、気付きの質を高めることができるようにする。<br>・ 活動の途中や単元終了後にイカすコーナーを設置し、自分の生活に生かしたことを紹介できるようにすることで、すすんで関わることの良さを自覚することができるようにする。 |

# 令和５年度　音楽科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

### （１）　成果

- ICT を活用して分かりやすい表示や掲示をしたり範奏動画を配信したりして、児童の知識・技能を向上させることができた。
- 音楽の仕組みや要素など身に着けた知識をもとに児童が思考していけるよう授業を組み立てたり思考に沿ったテンプレートを作成したりして、思考力や表現力を向上させることができた。
- 題材通しての学習の見通しをもてるような説明と学習をふりかえる場をもつことで、児童が主体的に学習に取り組む力を向上させることができた。

### （２）　課題

- 技能の定着には個人差があり、一部の児童は定着に努力を要している。
- どのように表現したいかについて考えをもつことに一部の児童は努力を要している。
- 見通しをもてず好みや気分で取り組み、めあてを達成するのに努力を要する児童がいる。

## ２　授業改善のポイント（観点別）

### （１）低学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・　個人指導で、児童の状況に応じた指導を行ったり児童同士で教え合う場面を増やしたりすることで知識・技能を身に付けることができるようにする。 | ・　例を示すなどして、発想を音楽づくりにつなげられるようにする。 | ・　ゲームの要素を取り入れるなどして、楽しみながら、音楽づくりに取り組める活動を増やす。 |

### （２）中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・　その時間に学習する仕組みや要素を掲示し、共通事項を意識して学習できるようにする。また、スモールステップで習得できるようにする。 | ・　音の上がり下がりなど要素を視覚的に理解できるテンプレートを作成し、視覚的に理解しながら学習できるようにする。 | ・　個別に声を掛け、めあてをもてるよう具体的な例を挙げて話をしたり支援をしたりする。 |

### （３）高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・　要素の特徴を理解できるよう、具体例を挙げて説明する。<br>・　範奏動画を配信する。 | ・　工夫の例に数多く触れたり例を実体験したりして、考えをもちやすくする。 | ・　見通しをもって学習し自己の学びを確認できるよう、具体例をあげて説明をする。 |

# 令和５年度　図画工作科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・絵や立体、工作に表す、造形あそび、またその中での鑑賞の活動について、まんべんなく題材を設定したことにより、興味の偏りを減らすことができた。

・鑑賞の方法や学習の振り返りを ICT 機器で行うことで、活動や作品を通した友達同士の関わりが増え、造形的な見方・考え方に広がりが見られた。

（２）　課題

・抽象的な形から発想を広げる活動に対して苦手意識を感じている児童の様子が見られるため、活動の中で身に付いた技能を大切にしながら表現できるようにすることが課題である。

・ICT 機器の活用が主に鑑賞や学習の振り返りに限られているため、鑑賞や振り返り以外の ICT の活用法の検討が課題である。

３　授業改善のポイント（観点別）

（１）低学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・用具の基本的な使い方を覚えたり、身の回りの材料を集めたりして、用具や材料を自分の気持ちや感覚と一体となって扱うことができるようにする。 | ・造形あそびの活動を十分に行い、思い付くままに試みて、楽しく発想や構想することができるようにする。<br>・身の回りの材料に十分に触れたり、身近な作品を見る機会を増やしたりして、造形的な見方、考え方に気付くことができるようにする。 | ・児童の日常的な感覚や思いを学習内容に取り入れ、新しい試みを見守ったり、励ましたりすることで表現活動に意欲的に取り組むことができるようにする。<br>・ねらいにそった活動の見取り（写真、動画）によって、励ましや価値付けを行い、自信をもつことができるようにする。 |

（２）中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・材料の特徴や用具の扱いを児童の実態に合わせて伝え、自分の思いに合った表現方法を追求できるようにする。<br>・既習事項と新たに学ぶ内容を関連付け、児童自身が身に付けたい知識・技能を生かすことができるようにする。 | ・抽象的な形から発想を広げる活動を設定し、自分のイメージや考えを深められるようにする。<br>・ICT 機器を活用して表現と鑑賞を関連付けて行い、自分や友達の表現のよさを十分に感じ、造形的な見方や感じ方を広げることができるようにする。 | ・ねらいにそった活動の見取り（作業過程の撮影など）によって、励ましや価値付けを行い、主体的に表現する学習活動に取り組めるようにする。 |

（3）高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| --- | --- | --- |
| ・活動に応じて材料や道具を活用するとともに、前学年までの経験を生かすことができる題材を設定し、創造的につくったり表したりすることができるようにする。 | ・抽象的な形から発想を広げる活動を設定し、自分のイメージや考えを深められるようにする。<br>・ICT 機器を活用して表現と鑑賞を関連付けて行い、自分や友達の表現のよさを十分に感じ、造形的な見方や感じ方を広げることができるようにする。 | ・ねらいにそった活動の見取り（作業過程の撮影など）によって、励ましや価値付けを行い、主体的に表現したり、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 |

# 令和５年度　家庭科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

## １　昨年度の授業改善推進プランの検証

### （1）成果

・学んだ知識や身に付けた技能を各家庭で実践できるように課題を与えることで、知識や技能の定着を図ることができた。
・各家庭で実践したことや、自分の考えを共有する機会を設け、友達と意見を交流して自分の意見を見つめ直すことで、協働的な学びにつなげることができた。
・各家庭で実践したことを報告する機会を設け、教員や周囲の児童に認められる経験をもたせることで、よりよい生活をしようとする意欲をもたせることができた。

### （2）課題

・ＩＣＴ機器を活用し、動画や資料を用意することで、学習したことを繰り返し身に付ける機会を設けることが課題である。
・自分の身近な家庭生活や学校生活を振り返る機会を題材の導入に設定することで、改善すべき点や課題を見付けることができるようにすることが課題である。
・振り返りの学習から次時への実践の方法を考えたり、方法や手順を見直したりすることで、PDCA サイクルを意識した生活の改善が有効であることを実感できるようにすることが課題である。

## ２　授業改善のポイント（観点別）

〇高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・ＩＣＴ機器を活用し、動画や資料を用意することで、学習したことを繰り返し身に付ける機会を設ける。<br>・ミシン等の実技学習の際は保護者ボランティアを募り、技能の向上を図る。 | ・自分の身近な家庭生活や学校生活を振り返る機会を題材の導入に設定することで、改善すべき点や課題を見付けることができるようにする。<br>・実践したことや考えを共有したり、ＰＤＣＡサイクルを意識させたりすることで、よりよい生活を送るために、改善点や課題に向けて自分に合った方法で解決できるようにする。 | ・振り返りの学習から次時への実践の方法を考えたり、方法や手順を見直したりすることで、PDCA サイクルを意識した生活の改善が有効であることを実感できるようにする。<br>・学んだことを自分の生活に生かそうとする意欲を伸ばすために、授業中のフィードバックを増やす。 |

# 令和５年度　体育科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ペアやグループで自己や他者の課題について話し合う機会を設けることで、協力して課題解決する活動が増えてきた。

・技や動きのポイント、毎回のめあてを学習カードや掲示等で分かりやすく提示することで、児童が自己の課題とその解決に向けて、意識しながら取り組む姿が見られた。

（２）　課題

・子供たちの「できる」経験を更に増やすために、教師は動きのポイントを理解して教材、教具、場の工夫を行い、児童がもつ課題を一つ一つ解決する支援を行う。

・ペアやグループの対話の機会をさらに増やすことで、自己の課題に気付いたり、課題解決に適した場を選んだりするとともに、新しい課題に気付くことができるようにする。

２　授業改善のポイント（観点別）

（１）低学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・指導方法や教材を工夫し、遊びの中で身に付けさせたい動きを経験できるようにする。児童が伸び伸びやってみる時間を多く確保し、運動の楽しさに触れながら、様々な動きを身に付けられるようにする。 | ・楽しく運動あそびのできる場や用具を用いることで、自分に合った場や遊び方を選ぶことができるようにする。<br>・友達のよい動きを見付けることができるようにするために、見合う時間を確保し、考えたことを伝える機会を設定する。 | ・きまりを守り、誰とでも仲よく運動に取り組めるように認めたり、励ましたりする声掛けを行う。<br>・体育指導補助員と連携して、個々に適した支援を行うことで、児童一人一人が運動に楽しく意欲的に取り組むことができるようにする。 |

（２）中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・各単元での技能のポイントを明確にし、映像や模範等で示すことで、単元ごとの運動の行い方を理解できるようにする。また、スモールステップで取り組むことができるような支援をし、児童一人一人の課題を解決できるようにする。 | ・学習カードや ICT 機器を活用し、児童一人一人が明確なめあてをもち、学習に取り組むことができるようにする。また、チームや友達同士で対話する機会を増やし、仲間とともに、自己や友達の課題を解決していけるようにする。 | ・児童の取り組みを認める声掛けや児童一人一人の課題に合った支援の声掛けを行い、「できる」楽しさを感じることができるようにする。また、児童の実態に合わせてルールを工夫し、誰もが運動の特性を味わいながら楽しめる授業を展開し、意欲的に取り組めるようにする。 |

（3）高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| --- | --- | --- |
| ・各単元での技能ポイントを明確にした資料の掲示をすることで、単元ごとの運動の行い方を理解することができるようにする。また、運動に苦手意識をもつ児童もスモールステップで取り組める支援を行い、児童一人一人が自己の課題を解決できるようにする。 | ・学習カードや ICT 機器を活用し、毎回の授業で自己の課題とその解決に向けて取り組んだ内容を視覚化できるようにする。また、ペアやグループの活動を増やし、友達同士で課題解決に向けた話し合いを行わせ、解決していけるようにする。 | ・児童一人一人の課題に合った声掛けを教師が行うと共に、児童同士が課題を協働的に解決する活動を通して、「わかる」「できる」楽しさを味わわせ、意欲的に取り組めるようにする。また、児童の実態に合わせてルールを工夫して、その運動の特性を味わいながら、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。 |